

な た 豆

草花や野菜の苗を、手押車に一べい積んで賣つてゐるのを大塚驛で見かけた。ユスモス、きりり、茄子等と、手作りを樂しむ人々のために、この季節になると道ばたに賣りに出てゐるのはよく見かけるが、私はこゝで、ついで今迄見かけなかつた苗を見たので、札をのぞいて見ると、ナタマメと書いてあつた。

一寸大の肉ぶとの豆は、兩に開いて真中から雙葉がキリリと立つてゐる。豆は成長してゆく雙葉を護つていかにしたものも、そうに見えたので、六本十錢といふのを、幼稚園の分と自分の家とに買つて歸つて、家のはすぐに植えておいた。

幼稚園に持つて行つたのは、手近に置いて育てたいと思つたので、大きい空箱にどろを入れて、窓下においた。雙葉は榮養を十分に攝つて、すん／＼のびて來た。新しい莖が成長するにつれて、あれほど勢の

よかつたもとの豆はだん／＼萎んでいつて、いつの間にか地面に落ちてしまつた。

私も今迄なた豆の、あの細長い莖の豆だけは知つてゐる。漬物にしても、なか／＼ぬかみそになちまないで青くさく、氣長につけておかなければならないといふことや、子供のころ福神漬が出ると、なた豆ばかり拾つて食べたことがあつたりしたが、それがこんな大きな豆をつけてゐる苗だとはちつとも知らなかつた。

幼稚園の子供達は知つてゐるわけもないけれど、誰をつかまへても、是れ何だかわかつて、ときいて見ると、誰も知らない、それで私ばかりでは無いと安心した。あんまり、しよつ中私が大事にしてゐるので、子供のお母さんにまで、先生、これは何でございませうかと聞かれて、答へるのが自分ながら可笑しくなつてしまつた。

やがてこの新しい莖が一尺近くものびて來たころ、風たんびに、たよ／＼としたはじめたので、おてのものゝヒゴで、てを立て、おいた。すん／＼のびると、これで

はヒゴもろ共たわ／＼として來たので、どうしようかと思つてゐたところ、いつも手入れに來てゐる幼稚園の植木屋さんが、見乗れたのであらう、廻天窓迄も届く割竹で、しつかりしたてを作つて呉れた。これで安心してか、たちまち窓の高さをこえてのびて來た。ジャックはイギリスにゐるとばかりは限るまい。もし鬼のお城に行くならば、日本のジャックさんよ、是れにお登りなさいと云はねばかりに勢よくのびていつた。

さうかうしてゐる中に花も見ないで夏休みになつてしまつたが、七月の終り頃講習に來てゐる間にうす紫の大きな花が咲いた。やがて實もついたと見えて、八月の終りには五寸位になつたと云つて、知らせて下さつた方がある。

もう四五日で夏休みも終る。脊丈けの伸びたみんなにあふことや、流れをつくられた庭を見ることや、子供と一緒に育て、來たなた豆が實を結んでゐること等、いろいろの楽しみが待つてゐる。(よしこ)